

授業科目名	看護技術Ⅳ			担当教員	松中 枝理子、石飛 マリコ	
開講年次	3 年前期	セメスター	5		時間数(単位数)	30 (1)
必修選択	必修	授業形態	演習		使用教室	
授業の目的	健康レベル、ライフステージ、個もしくは集団など、対象の特性に対して、適切な看護を行うための看護技術を習得する。					
到達目標	1. 侵襲度の高い看護技術を適切に実施するために必要な基本的知識と、科学的根拠に基づいた原理原則について理解できる。 2. 援助の必要性を判断、実施し、その結果を次の看護につなげる思考プロセスや判断能力を培うことができる。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	本科目は、健康レベル、ライフステージ、個もしくは集団など、対象の特性に対して、適切な看護を行うための看護技術を習得するための科目であるため、「問題解決力」を養成する科目である。特に、本科目では侵襲度の高い看護技術を学習し、看護職としての専門性を高めていくための科目であるため、主体的かつ自律的に学習する「自己教育力」が求められる。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
		○		◎		
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)		取組時間	担当者
1	授業ガイダンス 看護技術を適切に実践するための要素とは 【与薬の技術：注射】 筋肉内注射	講義	予習： (1) 系統看護学講座基礎看護技術Ⅰ序章「看護技術を学ぶにあたって」p2～15 (2) 系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ「看護技術の基盤」p2～7 (3) 系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ第9章「注射」p288～296、302～306		1 時間	松中 石飛
2	【与薬の技術：注射】 筋肉内注射	演習 (実技)	予習： 筋肉内注射のチェックリストの作成		1 時間	石飛 松中
3						
4	【与薬の技術：注射】 筋肉内注射	演習 (実技)	予習： 筋肉内注射の技術テストに向けて技術練習		1 時間	石飛 松中
5	【与薬の技術：注射】 筋肉内注射の技術テスト	演習 (実技)	予習： 筋肉内注射の技術テストに向けて技術練習		1 時間	石飛 松中
6						
7						
8	【症状・生体機能管理技術：検体検査】血液検査	講義	予習： 系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ第11章「血液検査」p357～362		1 時間	松中
9	【症状・生体機能管理技術：検体検査】血液検査	演習 (実技)	予習： 血液検査のチェックリストの作成		1 時間	松中 石飛
10						

11	【与薬の技術：注射】 静脈内注射／点滴静脈内注射	講義	予習： 系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ 第9章「注射」 p306～322	1時間	松中
12	【与薬の技術：注射】 静脈内注射／点滴静脈内注射	演習 (実技)	予習： 静脈内注射／点滴静脈内注射の チェックリストの作成	1時間	松中 石飛
13					
14	【死の看取りの援助】 死にゆく人と周囲の人々へのケア ／死後の処置	講義	予習：系統看護学講座基礎看護技 術Ⅱ第15章「死の看取りの援助」 p470～490	1時間	松中
15	定期試験を終えてのフィードバック	講義	予習： 定期試験範囲の内容について理解不十 分な箇所について事前に学習しておく	1時間	松中 石飛
先行履修 科目		2年後期までに履修すべき全ての科目			
テキスト		茂野香おる 他：系統看護学講座専門分野1基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ．医学書院， 2015. 茂野香おる 他：系統看護学講座専門分野1基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ．医学書院， 2017.			
参考文献		適宜、提示する。			
評価方法		筆記試験 60%、事前・事後課題 20%、技術試験 20%			
教員等の 実務経験		看護師の臨床経験のある教員が、その経験を活かして、臨床看護技術について教授します。			
メッセージ		看護技術Ⅳで取り扱う技術は患者にとって既習の技術よりも侵襲度の高い看護技術です。看護 者としての責任を自覚しながら演習に参加することを希望します。また、本科目は演習科目です。 個人の学習にとどまらず、グループ／チームで課題に取り組み、互いに高めあいながら学習して いくことを期待しています。			